



一般的なスイッチ管理

この章では、スイッチ管理に関する次の内容について説明します。

- スイッチの初期設定 (p.4-2)
- スイッチのソフトウェア リリース (p.4-3)
- コンソール ポート アクセス (p.4-4)
- CLI への Telnet アクセス (p.4-5)
- CMS への HTTP アクセス (p.4-4)
- SNMP ネットワーク管理プラットフォーム (p.4-6)
- デフォルト設定 (p.4-8)

次の情報については変更される可能性があるため、リリース ノートにのみ記載されています。スイッチを設置、設定、またはアップグレードする前に、以下の最新情報について、リリース ノート (<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm>) を参照してください。

- ソフトウェアとハードウェアの要件および互換性
- ブラウザおよび Java プラグインの設定
- セットアップ プログラム
- スイッチのアップグレード

このスイッチのソフトウェア リリースは、Cisco IOS Release 12.0 に基づいています。このリリースは、Catalyst 2900 XL および Catalyst 3500 XL スイッチ用の機能セットをサポートするように拡張されています。この章では、これらのスイッチ用に作成または変更されたコマンドの使用手順だけを扱っています。これらのコマンドの詳細については、スイッチのコマンド リファレンスを参照してください。この章では、Cisco IOS Release 12.0 のコマンド、および Cisco.com で提供されている Cisco IOS Release 12.0 マニュアルに記載されている情報については扱いません。

スイッチの初期設定

スイッチの初期設定には、次の作業が含まれます。

- スイッチのハードウェア インストールガイドに記載されている手順に従って、スイッチをネットワーク管理ステーションに接続します。
- セットアッププログラムを使用して、スイッチへの基本的な IP 接続およびアクセスを設定します。セットアッププログラムには、次のスイッチ情報が必要です。
 - IP アドレス。このスイッチは、IP アドレス情報を使用して、ローカル ルータおよびインターネットと通信します。CMS を使用してスイッチを設定および管理する場合も、スイッチに IP アドレスを割り当てる必要があります。
 - サブネットマスク (IP ネットマスク)
 - デフォルトゲートウェイ (ルータ)
 - パスワード

スイッチをスイッチ クラスタ内で使用する場合は、セットアッププログラムによってクラスタの名前およびパスワードを要求するプロンプトが表示されます。

セットアッププログラムに関する詳細は、リリース ノート

(<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm>) を参照してください。

- (CMS を使用する場合)適切なブラウザ プラグインをダウンロードし、Netscape または Internet Explorer ブラウザを設定します。ブラウザおよびプラグインの要件および手順については、リリース ノート(<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm>) を参照してください。

スイッチに IP 情報を割り当てたあと、スイッチをデフォルト設定 (表 4-2) で稼働させることも、ネットワークに関する要件を満たすように設定を変更することもできます。

IP の詳細については、「[IP 情報の変更](#)」(p.6-2) を参照してください。パスワードの詳細については、「[CMS へのアクセス](#)」(p.2-32)および「[パスワードおよびイネーブル レベルの割り当て](#)」(p.6-11) を参照してください。

スイッチのソフトウェア リリース

スイッチのソフトウェアは、新機能の追加やバグ修正によって定期的に更新されます。Catalyst 2900 XL または Catalyst 3500 XL スイッチで常に最新リリースを実行できるように、ソフトウェアをアップグレードしてください。新しいソフトウェア リリースは、Cisco.com で発表され、認定リセラーを通じて提供されます。Cisco.com から TFTP サーバをダウンロードすることもできます。

スイッチをアップグレードする前に、スイッチが現在実行しているソフトウェアのバージョンを調べてください。Reports > Inventory を選択するか、または show version ユーザ EXEC コマンドを使用して確認できます。

ソフトウェア バージョンを確認しておくことは、次に関して特に重要です。

- 互換性 (たとえば、スイッチ クラスタを使用する場合)
- LRE および LRE 以外の Catalyst 2900 XL スイッチ (これらは使用するソフトウェア イメージが異なります)。LRE 専用のイメージを、LRE 以外のスイッチにインストールすることはできません。非 LRE のイメージには、LRE 機能は含まれないので、LRE スイッチにインストールしないでください。

以下の事項については、リリース ノート

(<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm>) を参照してください。

- スイッチの要件
- スイッチのアップグレードに関する注意事項および手順

さらに、スイッチのローカル LRE コントローラ、または接続先 CPE デバイスのファームウェアをアップデートする必要がある場合、Catalyst LRE スイッチは LRE バイナリを格納し、正しく適用できます。この機能の詳細については、「[LRE スイッチ ファームウェアのアップグレード](#)」(p.8-16) を参照してください。

コンソールポートアクセス

スイッチのコンソールポートからは、スイッチに直接接続されている端末または PC にアクセスできます。また、シリアル接続およびモデムを使用してリモートの端末または PC にアクセスすることもできます。スイッチのコンソールポート接続の詳細については、スイッチのハードウェアインストールガイドを参照してください。

スイッチのコンソールポートの設定が、端末または PC の設定と一致していることを確認してください。スイッチのコンソールポートのデフォルト設定は、次のとおりです。

- ボーレート：9600
- データビット：8



(注) データビットを 8 に設定する場合は、パリティを「なし」に設定してください。

- ストップビット：1
- パリティ：なし

スイッチのコンソールポート設定を変更した場合は、必ずフラッシュメモリに変更内容を保存してください。CMS から変更を保存する手順については、「[変更の保存](#)」(p.2-34) を参照してください。CLI (コマンドラインインターフェイス) から変更を保存する手順については、「[コンフィギュレーション変更の保存](#)」(p.3-9) を参照してください。

CMS への HTTP アクセス

CMS は、スイッチの 1 つのイーサネットポートを使用してスイッチと通信する帯域内方式として、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) を使用します。これにより、標準 Web ブラウザからスイッチを管理することができます。デフォルトの HTTP ポートは 80 です。

HTTP ポートを変更した場合は、ブラウザの **Location** フィールドまたは **Address** フィールドに入力するときに、新しいポート番号を指定する必要があります (たとえば、新しい HTTP ポート番号が 184 の場合は、`http://10.1.126.45:184` を指定します)。

したがって、管理ステーションがスイッチと通信しているポートをディセーブルにしたり、誤って設定しないように注意してください。接続先のポート番号を書き留めておくことをお勧めします。スイッチの IP 情報を変更する場合は、十分な注意が必要です。

スイッチポート接続の詳細については、スイッチのインストールガイドを参照してください。

CLI への Telnet アクセス

次の手順は、スイッチまたはコマンドスイッチに IP 情報および Telnet パスワードが割り当てられていることが前提となります（最新のリリース ノート

[\[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm\]](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm) を参照）。Telnet セッションによる CLI へのアクセスについては、「[CLI へのアクセス](#)」(p.3-7) を参照してください。

スイッチに Telnet アクセスを設定する手順は、次のとおりです。

	コマンド	説明
ステップ 1		エミュレーション ソフトウェアを備えた PC またはワークステーションとスイッチのコンソール ポートを接続します。 スイッチ コンソール ポートのデフォルトのデータ特性は、9600、8、1、パリティなしです。コマンドラインが表示されたら、ステップ 2 へ進みます。
ステップ 2	<code>enable</code>	イネーブル EXEC モードを開始します。
ステップ 3	<code>config terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>line vty 0 15</code>	Telnet インターフェイス用にインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 コマンド対応スイッチでは、最大 16 のセッションが可能です。0 および 15 は、使用できる 16 個の Telnet セッションを全部設定することを意味します。
ステップ 5	<code>password <password></code>	イネーブル シークレット パスワードを入力します。パスワードの詳細については、「 パスワードおよびイネーブルレベルの割り当て 」(p.6-11) を参照してください。
ステップ 6	<code>end</code>	入力を確認するために、イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<code>show running-config</code>	実行コンフィギュレーションを表示します。 コマンド <code>line vty 0 15</code> の下にパスワードが表示されます。
ステップ 8	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

SNMP ネットワーク管理プラットフォーム

HP OpenView や SunNet Manager などのプラットフォームが稼働している SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) 対応管理ステーションを使用することにより、スイッチを管理できます。Catalyst 2900 XL および Catalyst 3500 XL スイッチのコンフィギュレーション、モニタ、およびトラブルシューティングは、CiscoWorks2000 および CiscoView 5.0 ネットワーク管理アプリケーションを使用して行うことができます。

スイッチの IOS ソフトウェア リリースは、Management Information Base (MIB) 拡張機能および MIB II の総合セット、IEEE 802.1D ブリッジ MIB、および 4 つの Remote Monitoring (RMON) グループをサポートしています。これらのグループは、SNMP アプリケーションまたは CLI を使用して設定できます。サポートされる 4 つのグループは、アラーム、イベント、履歴、および統計です。

ここでは、MIB オブジェクトにアクセスして、スイッチの設定および管理を行う方法について説明します。具体的な内容は、次のとおりです。

- 「FTP による MIB ファイルへのアクセス」(p.4-6)
- 「SNMP による MIB 変数へのアクセス」(p.4-7)

SNMP の詳細については、「SNMP の設定」(p.6-49) を参照してください。

クラスタ構成では、コマンド スイッチが、SNMP 管理ステーションとクラスタ内の全スイッチ間の通信を管理します。SNMP によるクラスタ スイッチの管理の詳細については、「SNMP によるスイッチ クラスタの管理」(p.5-24) を参照してください。

SNMP を使用してスイッチを設定する場合、ポート機能の組み合わせによっては、設定に矛盾が生じることがあるので注意が必要です。詳細については、「矛盾する設定の防止」(p.10-6) を参照してください。

FTP による MIB ファイルへのアクセス

各 MIB ファイルを入手する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1 FTP を使用してサーバ `ftp.cisco.com` にアクセスします。
- ステップ 2 ユーザ名 `anonymous` を使用してログインします。
- ステップ 3 パスワードが要求されたら、Eメールのユーザ名を入力します。
- ステップ 4 `ftp>` プロンプトで、ディレクトリを `/pub/mibs/supportlists` に変更します。
- ステップ 5 ディレクトリを次のどちらかに変更します。
- `wsc2900xl` (Catalyst 2900 XL MIB リストの場合)
 - `wsc3500xl` (Catalyst 3500 XL MIB リストの場合)
- ステップ 6 `get MIB_filename` コマンドを使用して、MIB ファイルのコピーを入手します。
-

ブラウザからこのサーバにアクセスすることもできます。Netscape の **Location** フィールド (Internet Explorer では **Address** フィールド) に、次の URL を入力してください。

```
ftp://ftp.cisco.com
```

マウスを使用して、上記のフォルダに移動します。

SNMP による MIB 変数へのアクセス

スイッチの MIB 変数には、SNMP を使用してアクセスできます。SNMP は、ネットワーク デバイス間で管理情報を交換するためのアプリケーション レイヤ プロトコルです。SNMP システムは、3 種類の要素で構成されています。

- SNMP マネージャ Network Management System (NMS; ネットワーク管理システム) に組み込まれています。
- SNMP エージェント スイッチに常駐します。
- MIB スイッチに常駐しますが、ネットワーク管理ソフトウェアを使用してコンパイルできます。

NMS の一例は、CiscoWorks ネットワーク管理ソフトウェアです。CiscoWorks2000 ソフトウェアは、スイッチの MIB 変数を使用してデバイス変数を設定し、ネットワーク上のデバイスに対してポーリングを実行し、特定の情報を入手します。ポーリング結果は、グラフ形式で表示されます。この結果を分析して、インターネットワーキング関連の問題のトラブルシューティング、ネットワークパフォーマンスの改善、デバイス コンフィギュレーションの確認、トラフィック負荷のモニタなどを行うことができます。

図 4-1 に示すように、SNMP エージェントは、デバイス パラメータおよびネットワーク データに関する情報の保管場所である MIB からデータを収集します。エージェントは SNMP マネージャに対し、トラップ (特定イベントの通知) を送信することができ、SNMP マネージャはトラップを受信するとそれを処理します。トラップは、ネットワーク上で発生した不正なユーザ認証、再起動、リンク ステータス (アップまたはダウン) などの条件を SNMP マネージャに通知するメッセージです。SNMP エージェントはさらに、SNMP マネージャから *get-request*、*get-next-request*、および *set-request* 形式で送られる MIB 関連のクエリに応答します。

SNMP マネージャは、MIB 情報を使用して、表 4-1 に示す動作を実行します。

図 4-1 SNMP ネットワーク

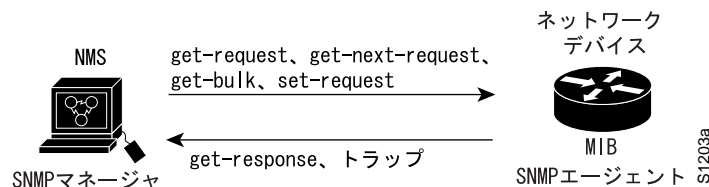


表 4-1 SNMP の動作

動作	説明
get-request	特定の変数から値を取得します。
get-next-request	テーブル内の変数から値を取得します。 ¹
get-bulk-request ²	複数のテーブル行など、通常は多数の小サイズのデータ ブロックに分割して送信する必要がある大きなデータ ブロックを取得します。
get-response	NMS から送られる get-request、get-next-request、および set-request に対して応答します。
set-request	特定の変数に値を格納します。
トラップ	SNMP エージェントから SNMP マネージャに送られる、イベントの発生を伝える一方的なメッセージです。

1. この動作では、SNMP マネージャに正確な変数名を認識させる必要はありません。テーブル内を順に検索して、必要な変数が検出されます。
2. *get-bulk* コマンドは、SNMP バージョン 2 でのみ使用できます。

デフォルト設定

スイッチはプラグアンドプレイ方式で動作するように設計されているので、スイッチに基本的な IP 情報を割り当て、ネットワーク上の他のデバイスに接続するだけで、運用することができます。スイッチに基本的な IP 情報を割り当てる方法については、「[スイッチの初期設定](#)」(p.4-2) およびスイッチの最新のリリース ノート

(<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm>) を参照してください。

特定のネットワーク要件がある場合には、各種の管理インターフェイスを使用してスイッチを設定することができます。表 4-2 に、ソフトウェアの主要機能、デフォルトの設定、このマニュアルの説明ページ、および CLI と CMS を使用した設定方法を示します。

表 4-2 デフォルト設定および設定値の変更

機能	デフォルト設定	概要および CLI の手順	CMS オプション
クラスタ管理			
コマンド スイッチのイネーブル化 ¹	なし	「 コマンド スイッチのイネーブル化 」(p.5-17) CLI の手順はありません。クラスタ コマンドの詳細については、スイッチのコマンド リファレンスを参照してください。	コマンド対応スイッチから Device Manager を起動します(クラスタ セッション以外)。 Cluster > Create Cluster
クラスタの作成 ¹	なし	「 スイッチ クラスタの作成 」(p.5-17) CLI の手順はありません。クラスタ コマンドの詳細については、スイッチのコマンド リファレンスを参照してください。	コマンド対応スイッチから Device Manager を起動します(クラスタ セッション以外)。 Cluster > Create Cluster
クラスタ メンバーの追加および削除 ²	なし	「 メンバー スイッチの追加 」(p.5-18) CLI の手順はありません。クラスタ コマンドの詳細については、スイッチのコマンド リファレンスを参照してください。	Cluster > Add to Cluster および Cluster > Remove from Cluster
スタンバイ コマンド スイッチ グループの作成 ²	なし	「 クラスタ スタンバイ グループの作成 」(p.5-20) CLI の手順はありません。クラスタ コマンドの詳細については、スイッチのコマンド リファレンスを参照してください。	Cluster > Standby Command Switches
クラスタ ソフトウェアのアップグレード	イネーブル	「 スイッチのソフトウェア リリース 」(p.4-3) スイッチの最新のリリース ノート (http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm) を参照してください。	Administration > Software Upgrade
SNMP コミュニティ スtring およびトラップ マネージャの設定	なし	「 SNMP コミュニティ スtring 」(p.5-14) および 「 SNMP の設定 」(p.6-49)	Administration > SNMP

表 4-2 デフォルト設定および設定値の変更（続き）

機能	デフォルト設定	概要および CLI の手順	CMS オプション
デバイス管理			
スイッチの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0	「IP 情報の変更」(p.6-2) スイッチの最新のリリース ノート (http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm) を参照してください。 Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > IP Addresses
Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)	DHCP クライアントはイネーブル	「DHCP ベースの自動コンフィギュレーションの使用方法」(p.6-3) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	–
ドメイン名	なし	「ドメイン名および DNS の設定」(p.6-6) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > IP Addresses
Cisco Discovery Protocol (CDP)	イネーブル	「CDP の設定」(p.6-14) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Cluster > Hop Count
Address Resolution Protocol (ARP)	イネーブル	「ARP テーブルの管理」(p.6-33) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > ARP
システム時刻管理	なし	「システム日時の設定」(p.6-13) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > System Time
MAC アドレス通知	ディセーブル	「MAC アドレス通知」(p.6-17)	–
スタティックアドレスの割り当て	なし	「スタティックアドレスの追加」(p.6-20) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > MAC Addresses
ダイナミックアドレス管理	イネーブル	「MAC アドレス テーブルの管理」(p.6-16) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > MAC Addresses

■ デフォルト設定

表 4-2 デフォルト設定および設定値の変更 (続き)





機能	デフォルト設定	概要および CLI の手順	CMS オプション
管理 VLAN	VLAN 1	「管理 VLAN」(p.9-4)	VLAN > Management VLAN
VLAN メンバーシップ	VLAN 1 のスタティック アクセスポート	「VLAN ポート メンバーシップ モードの割り当て」(p.9-6)	VLAN > VLAN
VMPS コンフィギュレーション	-	「VMPS の概要」(p.9-36)	VLAN > VMPS
VTP 管理	VTP サーバ モード	「VTP の使用方法」(p.9-10)	VLAN > VLAN
Voice VLAN (VVID) コンフィギュレーション	-	「音声ポートの設定」(p.7-15)	VLAN > Voice VLAN
パフォーマンス			
ポートの設定	-	「スイッチ ポートの設定」(p.7-1) および「LREポートの設定」(p.8-7) (LRE ポートのみ)	Port > Port Settings および Device > LRE Profiles (LRE ポートのみ)
		 <p>(注) Cisco 585 LRE CPE のイーサネット ポートは、ポート単位でディセーブルにすることはできません。CPE デバイス上のイーサネット ポートは、すべてイネーブルまたはすべてディセーブルのどちらかにすることができます。この制限事項は、Cisco 575 LRE CPE (イーサネット ポートは 1 つだけ) には当てはまりません。</p>	
デュプレックス モード		「ポート速度およびデュプレックス モードの変更」(p.7-2)	Port > Port Settings
		<ul style="list-style-type: none"> 10/100 ポート、100BASE-FX ポート、およびギガビット ポートでは auto CPE イーサネット ポートでは half duplex 	
		 <p>(注) このオプションは、Cisco 575 LRE CPE で使用できます。Cisco 585 LRE CPE では使用できません。</p>	
スイッチの 10/100 ポートおよび CPE イーサネット ポートの速度	auto	「ポート速度およびデュプレックス モードの変更」(p.7-2)	Port > Port Settings
		 <p>(注) このオプションは、Cisco 575 LRE CPE で使用できます。Cisco 585 LRE CPE では使用できません。</p>	
ギガビット イーサネットのフロー制御		「ギガビット イーサネット ポートのフロー制御の設定」(p.7-4)	Port > Port Settings
		<ul style="list-style-type: none"> すべてのギガビット ポートで asymmetric 半二重モードの LRE ポートではディセーブル。全二重モードの LRE ポートではイネーブル。 	
		 <p>(注) このオプションは、ギガビット ポート上でのみ設定できます。</p>	
LRE リンク速度および LRE ポート プロファイル	LRE-10	「LRE ポートの設定」(p.8-7)	Device > LRE Profiles

表 4-2 デフォルト設定および設定値の変更 (続き)

機能	デフォルト設定	概要および CLI の手順	CMS オプション
LRE レート セレクション	イネーブル	「レート セレクションを使用したプロファイルの自動割り当て」(p.8-11)	Device > LRE Rate Selection
LRE アップグレード	システム全体	「LRE スイッチ ファームウェアのアップグレード」(p.8-16)	Administration > LRE Upgrade
LRE リンク持続	ディセーブル	「LRE リンクの持続」(p.8-15)	–
インライン パワー	auto	「Catalyst 3524-PWR ポートのインライン パワーの設定」(p.7-17)	–
フラッディング制御			
ストーム制御	ディセーブル	「フラッディング制御の設定」(p.7-4)	Port > Flooding Control
不明のユニキャストおよびマルチキャストパケットのフラッディング	イネーブル	「ポートでのフラッディング トラフィックのブロック」(p.7-5)	Port > Flooding Control
Cisco Group Management Protocol (CGMP)	イネーブル	「CGMP の設定」(p.6-22)	Device > CGMP
Multicast VLAN Registration (MVR)	ディセーブル	「MVR の設定」(p.6-28)	–
Internet Group Management Protocol (IGMP) フィルタリング	ディセーブル	「IGMP フィルタリングの設定」(p.6-24)	–
ネットワーク ポート	ディセーブル	「ネットワーク ポートのイネーブル化」(p.7-6)	–
ネットワークの冗長性			
Hot Standby Router Protocol ²	ディセーブル	「クラスタ スタンバイ グループの作成」(p.5-20)	Cluster > Standby Command Switches
スパニングツリー プロトコル	イネーブル	「STP の設定」(p.6-33)	Device > STP
単一方向リンク検出 (UDLD)	ディセーブル	「単一方向リンク検出の設定」(p.7-8)	–
UDLD エラー検出	イネーブル	「単一方向リンク検出の設定」(p.7-8)	–
UDLD エラー回復	ディセーブル	「単一方向リンク検出の設定」(p.7-8)	–
ポート グループ	なし	「EtherChannel ポート グループの作成」(p.7-9)	Port > EtherChannels
診断			
統計、グラフ、レポートの表示	イネーブル	「スイッチ クラスタの確認」(p.5-21)	Reports
Switch Port Analyzer (SPAN) ポートのモニタ	ディセーブル	「SPAN の設定」(p.7-14)	Port > SPAN
コンソール、バッファ、ファイル ロギング	ディセーブル	– Cisco IOS Release 12.0 のマニュアル セット (Cisco.com で提供。)	–

■ デフォルト設定

表 4-2 デフォルト設定および設定値の変更（続き）

機能	デフォルト設定	概要および CLI の手順	CMS オプション
Remote Monitoring (RMON)	ディセーブル	「SNMP ネットワーク管理プラットフォーム」(p.4-6) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	–
セキュリティ			
パスワード	なし	「パスワード」(p.5-14) および「パスワードおよびイネーブル レベルの割り当て」(p.6-11) スイッチの最新のリリース ノート (http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/c2900xl/index.htm) を参照してください。	–
アドレス セキュリティ	ディセーブル	「MAC アドレス テーブルの管理」(p.6-16)	Administration > MAC Addresses
トラップ マネージャ	0.0.0.0	「トラップ マネージャの追加」(p.6-50)	Administration > SNMP
コミュニティ スtring	パブリック	「SNMP コミュニティ スtring」(p.5-14) および「コミュニティ スtringの入力」(p.6-49) Cisco IOS Release 12.0 のマニュアルセット (Cisco.com で提供。)	Administration > SNMP
ポート セキュリティ	ディセーブル	「ポート セキュリティのイネーブル化」(p.7-12)	Port > Port Security
保護ポート	ディセーブル	「保護ポートの設定」(p.7-11)	Port > Protected Port
ポート セキュリティ エージング	ディセーブル	「ポート セキュリティ エージングの設定」(p.7-13)	–
Bridge Protocol Data Unit (BPDU) ガード	ディセーブル	「BPDU ガードの設定」(p.6-48)	–
Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+)	ディセーブル	「TACACS+ の設定」(p.6-52)	–
Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS)	ディセーブル	「RADIUSによるスイッチ アクセスの制御」(p.6-56)	–

1. クラスタのメンバー以外のコマンド対応スイッチの Device Manager セッションからのみ使用できます。
2. クラスタ管理セッションからのみ使用できます。